


平成29年度国立天文台研究集会開催報告書

平成 29年 12月 18日

国立天文台長 殿

代表者	氏名	(ふりがな) しばた かずなり 柴田 一成 
	所属・職	京都大学大学院理学研究科附属天文台
研究集会名	アジア太平洋太陽物理会合2017 (APSPM2017)	
開催期間	平成 29 年 11 月 6 日 ~ 平成 29 年 11 月 10 日	
開催場所	京都大学国際科学イノベーション棟シンポジウムホール	
参加人数	150名	
研究集会の概要	<p>アジア太平洋地域における太陽物理学研究は、日本の太陽観測衛星「ひので」(2006年~)、インドの太陽X線観測衛星「SOXS」(2003年~)、中国の新太陽電波ヘリオグラフ(2015年~)や口径1m真空太陽望遠鏡(フーシャン湖NVST、2011年~)、米国の口径1.6m太陽望遠鏡(ビッグベアNST、2011年~)など、人工衛星・地上観測の装置の観点だけでも、著しい発展を遂げている。また、アジア太平洋地域の急速な太陽物理学分野の発展に伴い、中国-インド、日本-韓国といった2国間連携を中心とする国際共同研究の推進も活発に行われている。</p> <p>本国際会議「アジア太平洋太陽物理会合(Asia-Pacific Solar Physics Meeting: APSPM) 2017」は、この地域の太陽物理学分野の研究交流を一層加速し、最新の研究成果を共有したり、共同研究を推進したりすることを企図し、2011年から2年に1度の頻度で開催され、これまでにインド・中国・韓国で行われた。通算第4回目となる今回のAPSPM2017は、初めて日本での開催となった。また今回は、アジア太平洋地域において、太陽物理学分野周辺の研究領域(太陽系科学、宇宙天気・宇宙気候、恒星物理学)との一層の研究交流を促進できるよう、招待講演者の選定やプログラム作成に配慮をした。</p> <p>本研究集会では、4つのセッション「装置開発の進展と将来計画」「太陽外層大気の電磁流体プロセス」「太陽フレア・噴出現象と宇宙天気予報」「太陽内部構造と太陽・恒星活動サイクル」が設けられ、基調講演・招待講演・一般講演を合わせて、総数50件の口頭講演と、90件のポスター講演があった。APSPMは、若手研究者を対象とした表彰の制度も充実しており、これまでの研究業績に対するYoung Career AwardがP. F. Chen氏(中国)に贈呈された。また、本研究集会での講演に対するBest Presentation Awardが設けられて、口頭講演で発表される研究成果はさることながら、ポスター講演でも多くの研究成果が発表され、休憩時間にはその前で活発に議論する姿が各所で見られた。本賞は、今回はG. Hazra氏(インド)、鳥海 森氏(日本・国立天文台)、Q. Hao氏(中国)に贈られた。</p>	

<p>研究集会の成果</p>	<p>APSPM2017では、15ヶ国（中国・インド・日本・韓国・台湾・オーストラリア・米国・インドネシア・チェコ・マレーシア・サウジアラビア・ロシア・ノルウェー・ニュージーランド・英国）から150名（内、海外からは90名）に上る参加があり、APSPMの基幹国（中国・インド・日本・韓国・台湾・オーストラリア・米国）以外の、発展途上国を含む多くの国からも参加者があった。本研究集会は、国立天文台の他、名古屋大学宇宙地球環境研究所研究集会経費、科研費・新学術「太陽地球圏環境予測（PSTEP）」、京都大学教育研究振興財団からの支援を受けて開催されたが、これらの財政的な援助により、アジア太平洋地域を中心に多くの国からの参加を受け入れることができた。</p> <p>今回の研究集会を通して、今後、アジア太平洋地域に展開されているさまざまな観測施設のデータ解析が促進され、またそれらを通じた学生・若手研究者・発展途上国の研究者等を支援することが可能になると期待される。さらに、今後アジア太平洋地域の大型将来計画として、すでに建設・開発が始まっている米国・ハワイのDKISTやインドのAditya衛星をはじめ、インド2m望遠鏡、中国8m望遠鏡、日本小型EUVST衛星等があるが、これらはいずれも国際協力を必要とする大きなプロジェクトであり、本研究集会によって計画の内容を共有することができた。これにより、アジア太平洋地域における人材交流を促進しより強固な協力関係を築くことができると期待される。</p> <p>本研究集会経費からの支援は、海外・国内参加者の旅費に充当させて頂いた。この助成のおかげにより、多くの国から関連分野の研究者の参加を得ることができ、本国際会議を大変盛況に開催することができたことを、改めて感謝致します。</p>
<p>その他参考となる事項 (希望事項も含む)</p>	<p>本研究集会経費などの申請サイトにも報告書のフォーマットを置いて頂けると幸いです。</p>